

## 輪島事務所の活動紹介

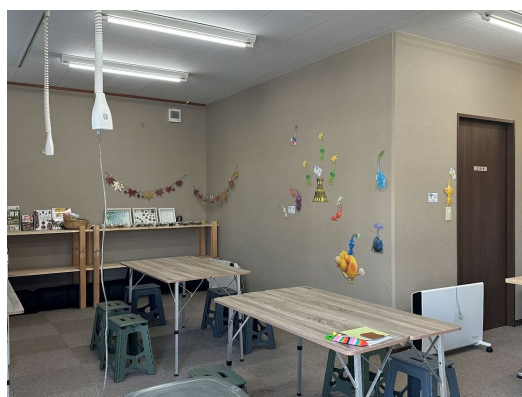
### ◇被災地にできた第3の居場所「あったかfe」◇

「あったかfe」は2025年2月に開設されました。場所は輪島市街地の真ん中（河井町）。しかし、開設当初の輪島市内は震災の傷跡が大きく、解体作業の進んだ現在（2025年11月）とは違った風景だったように思います。「あったかfe」の1階は15名程度が入れるスペースがあります。2階はスタッフが宿泊したり、学生ボランティアなどを受け入れられるように、キッチンや布団等があります。平日日中の「あったかfe」には小学生や地域のおばちゃん、おじちゃんたち、障害のある方など、地域住民が集まり、思い思いに過ごしています。

震災後、輪島には気軽に足を運べる場所がなくなったので、日を追うごとに「あったかfe」を必要としている人たちにその存在が広まっていった印象です。



「あったかfe」の外観



「あったかfe」の1階

### ワークショップが大人気

「あったかfe」には地元輪島のスタッフが2名います。一人は元輪島市発達支援室の保育士。人の話をじっくり聴き、人の気持ちを落ち着かせる才能の持ち主です。趣味は虫や貝殻、シーグラスなどを収集すること。もう一人は以前輪島塗の組合で働いていた、芸術的感性に優れ、自然とアイデアが溢れてくる企画上手。日本中の民芸品も集めています。そんな二人が企画したワークショップが大人気。小学生やおばさま方がレジン（液体を流し込む）、シーグラスでワークショップをして、「あったかfe」にはその作品がたくさん飾られています。自分ならではの作品が気軽に、簡単に作れるので、リピーターが後を断たないわけですね。



レジンの箸置き



シーグラスアート



放課後には学生がたくさん訪れています